

令和7年度 全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果から

今年4月に6年生が行った「全国学力・学習状況調査」の結果についてご報告します。国語・算数・理科の3教科と、学習意欲や生活の諸側面等に関する児童質問調査が実施されました。

図1が教科を中心とした学力・学習状況の全国平均と本校児童との比較、図2が学習習慣など、その他の学力・学習状況の全国平均と本校児童との比較です。点線の円が全国平均を示し、円の外側へいくほど数値が高くなり、逆に円の中心に向かうほど数値が低くなっていることを示しています。なお、今年度の神奈川県 averages は、国語・算数・理科全てにおいて全国平均とほぼ同じでした。

図1 教科を中心とした学力・学習状況

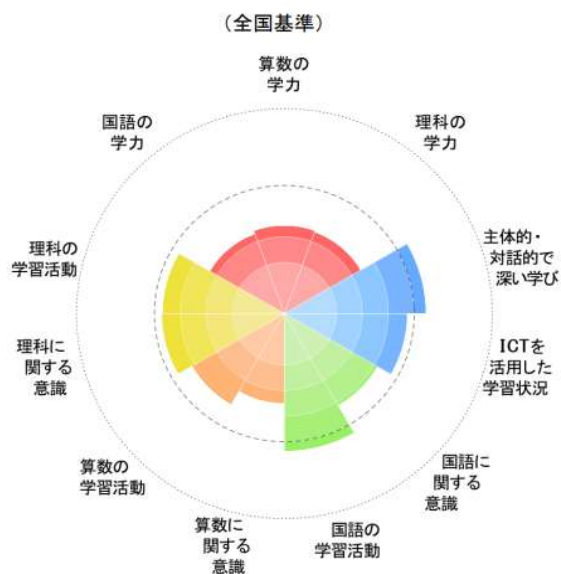
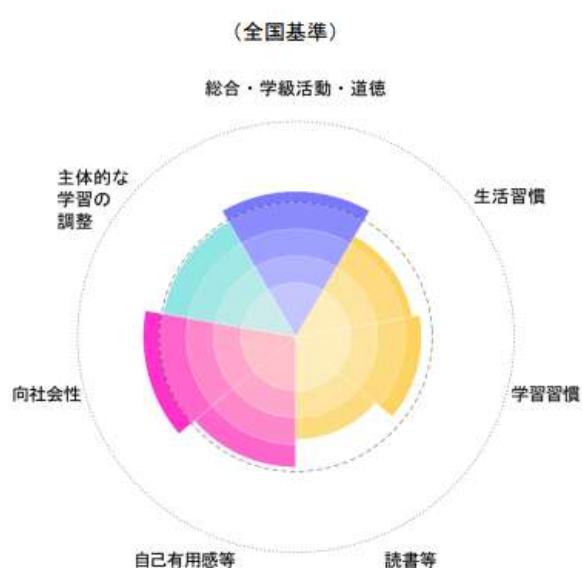


図2 その他の学力・学習状況



調査結果から、次のようなことが分かりました。

学力面では、正答率が、国語が13ポイント、算数が15ポイント、理科が13ポイント、全国の平均を下回りました。国語において、内容別に見ると、「書くこと」においては正答率が61%ですが、「話すこと・聞くこと」「読むこと」においては40%台と半分を下回る結果となりました。自分の考えが伝わるように表現を工夫することはできていますが、目的や意図に応じて必要な情報を見つけたり、伝え合う内容を検討したりすることが課題です。昨年度に引き続き本校では、「自分の思いや考えを表現できる子の育成」を研究テーマに授業づくりに取り組んでいます。伝え合う内容を検討したり、聞き手の状況に応じた表現の工夫を考えたりする活動を取り入れながら、書く力、読み取る力とともに国語力の向上を目指していきます。算数においては、「数と計算」「データの活用」においては50%台の正答率ですが、「図形」の領域で正答率が33%と、全国平均を大きく下回る結果となりました。学習内容と日常生活を結びつけながら、児童が興味関心を持ち、自ら課題解決に取り組めるよう、引き続き支援していきます。

生活習慣や学習意識の質問では、総合・学級活動・道徳に関する意識や向社会性においては全国基準より高い結果となりましたが、生活習慣や読書等の習慣については、全国基準を下回る結果となりました。今後も引き続き各ご家庭の協力をいただきながら、学習習慣の確立と規則正しい生活を支援すると共に、学校では、自分自身や周囲からも認められる環境を整えることに今まで以上に力を入れていきたいと考えます。また、最高学年として学級活動に留まらず、なかよし班遊びや委員会、行事など、様々な仲間との交流を通して、有用感、達成感を感じられるよう指導していきます。